



奈良で歴史探検をしよう

奈良教育大学教授 岩本廣美

地図歩きとしての歴史探検

私たちの身のまわりには、歴史的建造物や史跡が残されています。それらが豊富にある地域では、小学校中学年の社会科地域学習の一環で、歴史探検をしながら歩くとさまざまな発見があって楽しい活動になります。中学年では、本格的な歴史の学習はしませんが、子どもは建造物や史跡などに間近に接することによって、遠い昔に思いをめぐらすことができます。そうした原体験は6学年での歴史学習の基盤となる大切なものです。

歴史探検は、現地を歩くだけでなく、地図上で行ってこそさらに有意義な学習になります。現地では気づかないことを地図から発見できるからです。

『楽しく学ぶ小学生の地図帳 最新版』（以下、地図帳）掲載の50万分の1拡大図やイラスト地図を使えば、太宰府市や福岡市周辺、京都盆地、奈良盆地、鎌倉市、東京都中心部、札幌市など、歴史探検に効果的に取り組める地域は日本各地にあります。本稿では、それらの中で、古代以来、歴史の舞台になってきた奈良盆地を例に、地図上の歴史探検の具体的な展開例を述べたいと思います。

歴史の宝庫「奈良盆地」

地図帳p.29に掲載されているイラスト地図「奈良盆地」（図1）には、歴史的建造物のイラストや史跡の表示が数多く描かれています。盆地全体を見まわしてみると、歴史的建造物

や史跡は、盆地北東部の奈良市方面、西部の斑鳩町方面、南部の明日香村方面に比較的集中していることが読み取れます。世界遺産の表示のある建造物も多数見つけることができます。奈良盆地は、歴史の宝庫であることが実感として理解できます。



図1 『楽しく学ぶ小学生の地図帳 最新版』 p.29③

奈良市などに住む子どもたちにとっては、歴史的建造物といっても、日頃から見慣れたものかもしれません。しかし、「世界遺産」に登録された世界的に貴重な建造物が数多くあることや、このような地域が日本国内で希少なことにまず気づかせたいものです。また、地図帳p.30拡大図の奈良市の部分（図2）では、これも地域の子どもにとって見慣れた存在のシカが貴重な動物として表示されていることに気づかせるべきでしょう。野生のシカ（天然記念物奈良のシカ）が人に馴れて間近

に見られ、シカと接触すらできることは世界的に見てもきわめて珍しいことなのです。



図2 『楽しく学ぶ小学生の地図帳 最新版』 p.30①

山に囲まれた奈良盆地の地形のようすは、イラスト地図「奈良盆地」のほかに、地域版地図の「わたしたちの奈良県地図」(図3)を参照すると、いっそう理解しやすくなります。奈良県内で平坦部がまとまった面積で広がっているのは奈良盆地だけであることや、奈良盆地を囲む生駒山(642m)、葛城山(959m)などおんな山々の標高もわかります。奈良盆地の歴史探検を県学習の一環として展開するためには、地域版地図を併用すると効果的です。



図3 わたしたちの奈良県地図(部分)(監修:奈良県小学校社会科教育研究会 発行:帝国書院)

歴史的建造物の形に注目する

イラスト地図「奈良盆地」に描かれた歴史的建造物のイラストをひとつひとつ丹念に見ていくと、さまざまな形の建造物があることがわかります。縦に細長いタイプの塔と、塔以外の建造物とに分けることができます。

塔は、奈良市方面で五重塔(興福寺)のイラストが見つかります。盆地全体を見渡すと、平城京跡の西端付近(薬師寺)、斑鳩町方面(法起寺、法輪寺)、盆地西南部の香芝市(當麻寺)、盆地東南部の桜井市(談山神社)で塔を発見でき、しかも、塔の形がそれぞれに異なっていることが区別できます。五重塔ばかりでなく、三重塔もあります。薬師寺の三重塔は六重のようにも見えます。談山神社の十三重塔は、その感じがよく伝わってきます。

塔以外の建造物の場合も、イラストでは、それぞれに形が異なっています。法隆寺の表示付近の建造物のように屋根の形が八角形のように見えるもの(夢殿)や唐招提寺のように横長の建造物など多様です。

色に特徴のある建造物も見つかります。「平城宮跡」の表示付近では朱色で描かれた建造物が見つかります(大極殿)。この建造物は再建されたばかりのため、歴史的建造物かどうか疑問のむきもありますが、子どもの目から見ればその形は歴史的のです。



* * *

イラスト地図「奈良盆地」を見ていくと、ほかにもさまざまな発見がありそうです。子どもたちに地図上での歴史探検をぜひチャレンジさせたいものです。